

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 57 号

2006年6月



第 5 回水源の森復元ボランティア・龍ヶ岳観察会

6月4日（日）に水源の森復元ボランティア・龍ヶ岳観察会を実施しました。参加者は28名でした。鳩峰牧場での植林作業は今回で5回目ですが、JAおきたまから国への牧場返還手続きが完了したため、今回は「高山の原生林を守る会」の単独での実施となりました。ミズナラ、イタヤカエデ、クマシデ等の購入苗150本に加え今回は、この植林地に自生していた芽生えを持ち帰り育成した苗11本も里帰りを果たしました。堆肥代わりの落葉を肥料袋に入れ、苗を沢の水に浸してから植林作業に入りました。今回は、これまで植林してきた場所の補植を行いました。自分で芽生えを堀上げ、3年に亘って育成管理をして無事植え付けを済ませることが出来た方は極少数でしたが、誰でも味わえることではないので幸運な方とい



えるでしょうか。例年より花暦は遅れたためなのか、ベニバナミヤマカタバミやキバナイカリソウな

どの珍しい花に遭遇する幸運に恵まれた会員もいました。今回で通算1663（里帰り13本）本の植林を終えることが出来ました。参加していただいた会員の皆さんご苦労様でした。





4月30日晴れ間が広がり4月29日東吾妻に引き続き今日は初めての観察会で、どんな人達が集まるのか、そちらの方が私は気になっていました。十万劫で知り合いになった吉田さんの紹介でした。ところが、行って見ると昔の知り合いも、安達太良縦走した女友達が一人、それから山の本で有名な奥田さんもいらっしやって、うれしいやら、とにかく、やさしそうな人達？の集まりのようで一安心です。

水原の自然を守る会の方達より挨拶。門を開けてもらい、中に入り佐藤さんの周りに集まる人達の多いこと。聞くと歩く植物図鑑のように花の名前、植生に詳しい。そして花ばかりではなく、樹木にも詳しい。よく周りを見てみるとカメラで花を取る人達も手馴れているようで、私ときたら久しぶりにへたなスケッチと花の名を書くので精一杯でした。今日の観察会はスマレが9種類も見れたことに尽きます。すみれと言ったらむらさきと決め込んでいた私。いつもの里山歩きでも、あ、すみれだ、で終わってしまうのに、よくよく見ると色も葉の形もこんなに種類があって、違いがあつてちょっとビックリでした。今日見た花を上げときます。スマレ、スマレサイシン、アケボノスマレ、アオイスマレ、タチツボスマレ、ヒナスミレ、アカネスマレ、ニョイスミレ、オオタチツボスマレ、もう一つ？書き忘れてしまいました。一番かわいい可憐な花はあわいさくら色したヒナスミレでした。佐藤さんも写真に撮っていました。それからヨゴレネコノメソウとネコノメソウもめずらしい花だと詳しく話されていました。クマガイソウはまだ早く、蕾でしたが、山の斜面一杯に咲いたら本当に見事だろうと思います。私はまだ一度もこの花にお目にかかったことが無いので花の咲く季節に一度行ってみようと思います。

次に笹森山登山。こちらは急な杉林を抜けるとコナラの雑木林で、ここまで来ると下のむっとした暑さも取れ、爽やかな空気が気持ちよかったです。ここでは樹木の名前を教えてもらいました。サルスベリに似たりヨウブ、ナツツバキで良かったでしょうか？実に手触りの良い木肌でした。クロモジ、ミズキ、？カエデなども教わりました。山頂までは行けませんでした。途中で昼食をした時にオオルリが私達の食べている目の前を低空飛行で飛んでいったのには嬉しかったです。

自然観察会は皆さんの熱意にちょっと驚いた事と、パンフレットを帰ってから最後まで読むと、本当にもっともだと思いつつ、人間は自然に対してどう自己責任を取るべきか、もっと謙虚な気持ちで向き合って欲しいつくづく感じ、一人一人が何ができるか考えるべきですよネ！山からいろいろ学び手厳しい試練のここ2、3年の日々、たどりついた所は自然観察＝自分観察。自分の体力にあった山に登ろうと思います。ありがとうございました。これからも参加したいと思いますので宜しくお願いします。

5月13日

自然観察会に参加して

橋本真理子

先日行われた「早春の花観察会」で、初めて観察会に参加させていただきました。ちょうど連休でもあったので両親も誘ってみることにし、両親は三春町から、私は石川町からの参加となりました。

もともと屋外で遊ぶことが好きなので、釣りでも山歩きでもサイクリングでも楽しんでやってきましたが、野山の植物に関してはとても疎く、観察会に参加することで少しでも山歩きの楽しみが増えれば・・・という気持ちでした。

観察会の活動については、以前、(Kさんから)話に聞いていたので、ゆっくりのんびりと野山を楽しむ会だというイメージがあったのですが、参加してみると予想以上の「楽しみぶり」で、参加者の皆さんの(ものすごい)関心の高さ、知識の豊富さに圧倒されました。ともすると自分は見過ごし、踏みつぶしてしまいそうな葉の下にも、地に埋もれそうになりながら可憐に咲いている花を発見し、名前を教えていただくなど、そのアンテナの高さには驚かされました。

今回の観察会のメインであった『クマガイソウ』は、残念ながらまだ花を見せてはくれませんでした。斜面に数え切れないほどの芽を出し、ひしめきあっている(少々アスパラガスのような)姿に、やがて葉を広げ、花を咲かせる日を想像してきました。そして、いつもは全く植物の名前を覚えられない私ですが、今回はクマガイソウはじめ、幾つかの植物を実際に観察して知ることができました。『ヤマブキソウ』『イチリンソウ』『ニリンソウ』『エンレイソウ』『ネコノメソウ』などなど……。しっかりと見れば頭にも残ることが分かりました。最も気に入ったのは『ヒトリシズカ』で、その名前とは裏腹に、仲間たちと片寄せあつてたたずんでいる姿が微笑ましかったです。

いつも歩くこと・拾うことばかりに熱中していた山歩きですが、足元の小さな命にも目を向けることの楽しみも知ることができた一日でした。



アオイスミレ



アケボノスミレ



ヒナスミレ



シュンラン

「第5回水源の森復元ボランティア・観察会」に参加して

山地 英雄

私達（夫婦）は「高山の原生林を守る会」に入会させて頂き6月4日は、鳩峰峠の牧草地に、イタヤカエデ、クマシデ、ミズナラ、トチ等を植林する催しに参加しました。

私は当初「高山の原生林を守る会」ということなのでなぜという感じでいました。私はボランティアも山での植林作業などは全て初めての体験で大丈夫かと心配でしたがなんとか、仲間の方に教えていただき、何とか作業を完了することが出来ました。牧草の中に埋もれて幼な木や雪で倒れた木も元気に育っていましたが、この木が成長し林になるのには約30年位はかかると思われます。私は見届けることは出来ないと思います。しかし、夢に描くことはできるかも！もっと沢山の人の協力があればな！

来年も元気であれば、ぜひ参加したいと思っております。その節はよろしくお願いいたします。

龍ヶ岳賛美（龍ヶ岳観察会に参加して）

山地 尚子

午前中の植林を終えて午後から龍ヶ岳の観察会。ヤマツツジがまだ咲いていました。いつもの年だと今頃レンゲツツジが満開だと言うが咲き始めたばかり。牧草地だった所を抜けて登り始めてまず目にとびこんだのがうす紫色の清楚なアズマギク。私の好きなアズマギクがあっちにもこっちにも感激！ベニバナイチヤクソウ、マキノスミレ？に似たスミレ、ミヤマハタザオ、ホウチャクソウ、マイヅルソウ、ショウジョウバカマ、藪の中で群生していた白い花は何だったかしら。ガクウラジロヨウラクはまだ蕾。ヤシオツツジのピンクはやさしい花。ムシカリの白と対照的な。まさに緑の回廊と呼ぶにふさわしい道を通って頂上へ。眺め最高。山の連なりがきれいに見えました。

頂上からブナの森への樹林帯に突如、原生林がカエデ、ミズナラ等の木が四方八方に手を伸ばし風雪に耐えながらどの位、生きてきたのでしょうか。そんな木々の向こうに白い花が、サンカヨウの花でした。ブナの森に着きました。ブナの木はまだ伸び盛りの青年のように立っている木に耳を近づけて水の流れる音を聞こうとしましたが修行



が足りず聞けませんでした。そこに居るといつまでもいたいような安らぎを覚えました。水を貯え動植物と共に地球の環境を守ってくれている大事なブナを守り育ててゆくことが私達の務めではないかと。そのために森を復元しようと5年も植林の活動をしているこの会のすごさに感動しました。

龍ヶ岳、1000m 足らずの山なのに草花も豊富、変化に富んだ森、なんて魅力的な山でしょう。来年も、いや、秋にも行きたい。

「会津山地森林生態系保護地域」、「緑の回廊」設定委員会報告

高橋 淳一

会津地域の国有林について、「森林生態系保護地域」並びに「緑の回廊」を設定する委員会が設置され、当会からも高橋が委員委嘱を受け、去る2月24日には第1回の委員会が開催されましたことは、前56号会報で報告いたしましたが、第2回の委員会が5月31日、6月1日の2日間に亘って只見町で開催されましたので報告いたします。

初日は一部委員を除き、郡山駅から、事務局の準備したマイクロバスにて只見町に向いました。途中、休憩、昼食を取り、現地集合場所である田子倉ダムサイトに到着したのは午後1時30分近くになっていました。そこには、地元只見町、金山町、昭和村の町村長と関東森林管理局の関係者が既に到着しており、早速合流し、2日間のスケジュール説明後、現地検討に入りました。最初はダムサイトから、次に六十里越峠付近に移動し、生態系保護予定地域の遠望を行い、当局関係者からは、岩陵地帯であり、土壌が未発達である。ブナ等の高木が見られる場所は窪地や緩傾斜地など特異な場所に限定されるが全体としては貴重な生態系である旨説明がありました。その後、八十里越トンネル工事の進む浅草岳山麓の入叶津地区に移動、道路脇のブナ林2箇所を視察しました。今年は残雪が多く、樹高が30mを越える新緑のブナと林床には咲き始めたユキツバキの真紅の花とのコントラストがすばらしく、吾妻山では見られないもので、最近まで一般に注目されなかったのが不思議に思えました。また、旧八十里越道路（現在は廃道）も視察、只見町長からは新道が開通すると燕三条市まで1時間程度で結ばれ、経済効果以上に町民の健康福祉面での状況改善になるなど地域の窮状を聞くことができました。なお、現地視察は午後3時半過ぎには終了し、4時過ぎには宿舎に入りました。

2日目、午前9時30分から町中心部の只見町地区センターに場所を移し、第2回設定委員会が開かれました。主催者挨拶に続き、出席者の自己紹介後、当局から、第一回設定委員会の議事録並びその後の提案、意見等の報告、そして修正案の提示の順に議事進行を行い12時には閉会となりました。この中で、提示された修正案には当会から要望した「吾妻山森林生態系保護地域」の拡張要望が全て認められ、新たに中吾妻地区、二十日平地区のブナ林（115ha）が生態系地域に編入されることになるほか、「仮称：会津山地森林生態系保護地域」では保存地区（コアゾーン）への1775haの追加することが提案され了承されました。しかし、「飯豊山森林生態系保護地域」拡張要望については進展が無く、再度の拡張要望を行い、再検討することの回答が得られました。また、緑の回廊の設定方針と維持・整備方針においては、生態系保護の姿勢をより明確にするとともに天然林を原則的に禁伐とすることが表明されました。しかし、自治体代表の一部委員からは地元の木工産業に配慮してほしいとの意見が出されるなど、最終的決定には自治体の理解を得ることがポイントになるようです。当会としては、飯豊山周辺の拡張を今後の最大のテーマとして現地調査等も積極的に実施し、当局側に働きかけてまいりたいと思います。



岩手県には宮沢賢治ゆかりの山が多く点在する。今まで紹介した東北ブナ紀行でも、七時雨山や駒頭山、秋田駒、焼石・栗駒なども、そのグループである。今回紹介する方面森もそのひとつ。また今回のブナの山もまた、冬に訪れ、その夜は瀬川夫妻宅に泊り、翌日はカタクリの会の観察会に参加した、恒例のパターンであった。

4 1）方面森

方面森とは変わった名前である。「かたづらもり」と読む。この山は花巻在住の佐藤孝さんが、この山は賢治の作品に現れる「みみずく森」とであると推論した山。さっそく、守る会のメンバーで訪れてみた。

川を渡って、神社を抜けて急な尾根に取り付く。尾根に上がっても急な登りは、主尾根まで続いた。主尾根は緩やかで、しかもトレースがあった。ブナを中心とした二次林の尾根をたどると、素晴らしいブナの森に差し掛かった。ここは尾根の東の台地にブナ林が広がっている。皆、思い思いにブナの森を堪能する。尾根に上がると、そのブナ林を見下ろすようになり、普段見慣れないブナの風景を味わった。見事な森は山頂まで続いた。狭い山頂で昼食をいただいて、ブナの森を滑り降りた。

コースタイム：尻平川(1時間)509m点尾根(30分)ブナ帯(30分)方面森(40分)尻平川

4 2）高下岳

瀬川さんにコースを確かめて、取付きまで来る。高下岳の登山道のある尾根とは無縁の尾根に取り付く。高下岳から独標1066m点の尾根から東に大荒沢川へ降りる尾根は3本派生しているのが、地図で確かめられる。この中で真ん中の尾根をたどった。最初の時には吹雪であったので、翌々年再度登った時には、南の尾根から登っている。

川を渡って、急な尾根に取り付く。細い箇所もあって苦労させられるが、尾根に出ると急ではあるがスキーでたどれる。次第に素晴らしいブナが散見されるようになる。さらに登るとブナは急に無くなって、主尾根に到着となった。主尾根は立派なブナ少なく、若いダケカンバや矮性化したブナで、ブナに関しては見るべき木々は少なかった。視界の無い山頂もそこそこに戻り、赤布を付けた枝尾根に入ると同時に雪崩が発生した。スローモーション映画を見るようにゆったりと雪崩は流れていったが、その上を越えてブナの森に入っていた。

コースタイム：大荒沢川(1時間30分)主尾根(1時間)高下岳(2時間)大荒沢川

方面森 見事なブナに感動(左) 吹雪のブナ林・高下岳(中) 雪の中にブナが息づく・高下岳(右)



ヒメシャクナゲ (*Andromeda polifolia* ツツジ科ヒメシャクナゲ属)

高層湿原に植生する常緑小低木。ミズゴケのマット上に群落を形成する。葉は互生し、形は細長い広線状披針形、表面は濃緑色をしており、彫りの深い平行脈が走り、裏面は白毛で覆われる。葉縁は滑らかで外側に巻き込み先端は尖る。ヒメシャクナゲの名前はこの葉のイメージに由来するらしい。葉の姿はイソツツジに似るがイソツツジよりも更に端正な印象である。

茎の先端から輪生状に花茎を伸ばしアオノツガザクラに似たつぼ状の花を数輪下向きに咲かせる。花の先端は5裂する。雄しべは10個で葯には2本の角がある。花の色は気品のある桃色で、つやのある花の表面と相まって美しい。

属名の *Andromeda* (アンドロメダ) は、ギリシャ神話に出てくるエチオピアの美しい王女の名前を指す。湿原の浮島に咲くヒメシャクナゲを島につながれた美女に例えたという。花を咲かせたその容姿をみればその属名にも納得する。吾妻連峰のとある湿原で初めてこの花に出会ったときの感動は今でも忘れない。その湿原では株の数は少なく点在する程度であった。時を経て、訪れた別の湿原ではコロニー状に群落を形成しイワカガミやミツバオウレンとともにこの世の楽園を演出していた。飯豊連峰、安達太良連峰には植生せず吾妻連峰でもイソツツジと棲み分けをしているのか自生する山域が限られている。

全国的に山野草として有名らしく温泉地などで売られているのを見かけるがその花の色合いは自然のものとは比較にならない。私は吾妻連峰での植生の希少性と山野草としてのポピュラー性の間の落差の大きさに戸惑いを感じるばかりである。そんな訳で盗掘が心配されるので具体的な場所は明記しないことにした。



クルマユリ (*Lilium medeoloides* ユリ科ユリ属)

亜高山や高原の草原に植生する多年草。時として林下にコロニー的に群落を形成することもある。いかにもその姿は夏らしく、夏山を代表する華やかな花である。葉は茎の中段部で柄の無い先の尖った広線状の10葉前後の葉が車状に輪生するのが特徴で、名前はそれが車輪のこしき(車軸)を連想させることに由来する。更にその上部に小さな葉が互生し、その先端に下向きの花を1～数个輪生する輪生花序を1、2段形成する。花はユリ科の特徴で3の倍数で成り立つ。花卉に見えるものはがくと花卉が合わさった6枚の花被片と呼ばれる器官である。開花すると花被片が強く反り返る。花被片の色は赤色～朱色で中央部に赤紫色の斑点を持つ。クルマユリの花は両性花で6本の雄しべと1個の雌しべを有する。柱頭は分裂しない。吾妻・安達太良連峰での開花期は7月下旬から8月中旬である。



私がクルマユリを初めて見たのは、飯豊山だと思いが、高山の花としての認識を強めたのは越後連峰の荒沢岳に登った時である。山頂付近の岩峰の麓に1株だけ咲いていたのだが、その姿は実に凛々しくあれから20年経過した今でも忘れられない風景である。花の色はオレンジから濃い赤色まで変化するようである。飯豊山のクルマユリは草丈が低く花色は特に赤が濃い。吾妻連峰では谷地平の大倉深沢周辺にクルマユリの群落が見られる。ここのクルマユリは丈が大きく花も大きめでややオレンジがかった花が紺碧の空を背景に実にすがすがしく、いかにも夏山らしい一幅の景観を満喫させてくれる。いずれも広々とした風が良く通る空間に自生する印象が強いが、甲子山ではやや薄暗いブナ林の一角で大振りの花を咲かせているのを見つけて驚いた。その周辺は、お盆の飾り行灯がもったような懐かしい風情が漂っていた。

第 84 回自然観察会：西吾妻観察会とボランティア活動（誘導ロープ補修）

日時：7月2日（日）7：30～17：30 参加定員20名（健脚向き）（少雨決行）

集合場所時間

①福島方面＝四季の里正面入口交差点駐車場 午前7時20分

②郡山方面＝裏磐梯ビジターセンター駐車場（五色沼入口）8時30分

内容：西大瀬から西吾妻避難小屋間に設置の誘導ロープの補修並び張替えを行い、登山者による湿原等の裸地化防止を図ります。また、見頃となる南限の花、ヒナザクラやチングルマ等、高山植物の観察を行ないます。

準備品：登山靴（長靴）、雨具、スパッツ類、帽子、手袋、着替、昼食、水筒、（あればハンマー、ペンチ）

日程：7：30（四季の里）→8：30（裏磐梯ビジターセンター駐車場）→8：50（グランデコスキー場）→9：00（ゴンドラ乗場）→9：30（ゴンドラ終点）→11：30（西大瀬）11：30～13：30（ロープ補修・昼食）→15：30（ゴンドラ終点）→16：00（ゴンドラ乗場）→16：30（裏磐梯ビジターセンター駐車場）→17：30（四季の里）

参加費：1500円（保険代¥300＋ゴンドラ代¥1200）

申し込み：7月1日（土）まで

参加申込先：高橋淳一（TEL 024-593-1990）または佐藤守（TEL 024-593-0188）

電話またはメールにて申し込みください。（電話申込はいずれも夜間7時～9時でお願いします）

第 85 回自然観察会：小野川探勝路観察会：日時：8月27日（日） 7：30～16：30

集合場所：四季の里正面入口交差点駐車場 集合時間：7：20 参加定員 20名

（または五色沼ビジターセンター駐車場8：45集合）

内容 裏磐梯・西吾妻連峰の日本の名水100選にも選定された百貫清水を始めとした湧水群。それらの清水を集めて、一気に水を落とす小野川不動滝。古くは修行の「山伏修練の滝」と呼ばれた。そこまでの探勝路を観察します。

日程 7：30四季の里発→8：45五色沼駐車場発9：00→9：15小野川駐車場9：30→11：30小野川不動滝12：30（川を渡ればグランデコ・エプロンへ）→小野川駐車場14：30発→16：30四季の里

準備するもの：登山靴（長靴）、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋、着替、昼食

参加費用 保険代300円（当日）

申し込み 8月26日（土）まで

*その他不明な点があればご相談下さい。

参加申込先：高橋淳一（TEL 024-593-1990）または佐藤守（TEL 024-593-0188）

電話またはメールにて申し込みください。（電話申込はいずれも夜間7時～9時でお願いします）

*その他不明な点があればご相談下さい。

2006年カタクリの会奥羽自然観察会計画（7月～12月）

月 日	回数	自然観察会のテーマ	観 察 地	集 合 地
7月16日（日）	187	ブナの森の滝巡り	下前風景林	西和賀町役場
8月20日（日）	188	和賀川を歩こう	和賀川	沢内分庁舎
9月10日（日）	189	秀衡黄金街道の道歩き	鷺之巣周辺	西和賀町役場
10月22日（日）	190	落ち葉とキノコ	未来の森	西和賀町役場
11月3日（日）	191	冬の渡り鳥	錦秋湖	西和賀町役場
12月3日（日）	192	初冬の森を歩こう	西和賀地内	西和賀町役場

* 会則、会費はなく誰でも自由に参加できますが、各観察会の一ヶ月前から電話でのみ受付です。

カタクリの会連絡先：郵便番号 029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15 電話&FAX0197(82)3601 代表：瀬川強

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

【訂正とお知らせ】花紀行22「サクラスミレ」2行目「地下茎」は「地上茎」の誤りです。編集の都合により「植物和名考」は次号掲載とします。

「高山」高山の原生林を守る会会報 第57号 2006年6月発行
編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>
代表連絡先：高橋淳一 Phone 024-593-1990（夜間7時～9時）
郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」
入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで
編 集：奥田・佐藤・山内・鈴木